

点から面への交流へと拡大

連合北海道は2月17日、2017春季生活闘争の取り組みの一つとして「第3回医療(看護師)職場の意見交換会」を札幌市内で開催した。道内各地から看護師や助産師等12単組38名が参加。各病院の実態報告や今回初めて取り入れた分散会を通じて、各単組・職場の取り組みに学び合い、春季生活闘争で看護職員をはじめとする医療職場の処遇改善に向けて取り組んでいこうと確認し合った。

参加者からは看護師不足に伴う職場環境の改善に向けて、「他の職場の取り組みを自分たちの職場に活かしていきたい」、「今度は単組の合同会議を開催し、処遇改善に向けた取り組みを学び合いたい」などの感想が聞かれた。2015春季生活闘争から開催して3年が経過し、参加者の交流にとどまらずに組織間の交流へと発展していることが感じられた意見交換会となった。

■慢性化している看護師不足の背景には職場環境の厳しさ

慢性化している看護師不足の背景には時間外労働の常態化、低い休暇取得率、夜間勤務の負担増、5年間横ばいの賃金といった職場環境の厳しさに伴う高い離職率があり、都道府県別の常勤看護職員離職率は東京、神奈川、大阪など大都市部で高い傾向となっているが、北海道も8番目に高い離職率となっている。道の調べでも道内で約4千人の看護師が不足しているとしている。安心・安全な医療・看護提供体制を確保し、看護師の離職防止と働く環境整備が急務となっており、冒頭、連合北海道永田組織労働局長も看護師不足、賃金の状況、夜勤時間の長時間化などにふれ、「情報を共有し、好事例の場としての意見交換会としたい」と開催の趣旨を含めて挨拶した。



▲道内各地から約38名が参加(全体会議)

■好事例に学ぼうと熱心に意見交換

全体会議では有給休暇の取得状況や時間外労働の実態、ハラスメントの状況をはじめとする各病院の実態や組合の取り組みについて参加12単組から報告がされた。その中では、情報労連N T T北海道総支部札幌病院分会から「労働組合と使用者との交渉で有給休暇の取得は当たり前という職場環境ができている」、「数年前に離職者が急増していることに病院が危機感を感じて看護職員満足度調査を実施し、結果をふまえて看護師の業務負担軽減に向けた施策を実施している」など処遇改善に向けて、単組の取り組みに参考となる報告がされた。その後の分散会でも10人程度のグループにわかれ、情報の共有、各単組や職場の取り組みに学ぼうと熱心に意見交換がされた。



▲各職場の取り組みや情報を共有しようと熱心に意見交換(分散会)

■人に着目した改善が必要

意見交換会に先立ち、2年前に設立された北海道医療勤務環境改善支援センターの富樫真紀子アドバイザーを招いて、「看護師等の医療スタッフの離職防止、医療安全の確保」と題して学習会を開催。富樫さんは支援センターの取り組みを紹介するとともに、「職場で何が一番問題になっているか、制度はあっても活かされる職場風土になっているかチェックしてほしい」、「労務管理は人を無視してはいけない。人に着目した改善が必要」などと、働きやすい職場をつくるための視点についてアドバイスをした。



▲働きやすい職場作りは人に着目した改善が必要などとアドバイスした富樫さん(学習会)

以上